

令和6年度八戸市総合教育会議 会議録

開催日時 令和7年2月17日(月) 午後2時

場 所 八戸市立図書館2階 集会室

構 成 員	八戸市長	熊 谷 雄 一
	教育委員会教育長	齋 藤 信 哉
	教育委員会委員	福 井 武 久
	教育委員会委員	西 山 康 巳
	教育委員会委員	小 澤 直 子
	教育委員会委員	久 保 千恵子

議 題 (1)令和6年度教育委員会視察研修報告
(2)「本のまち八戸」における八戸市立図書館の今後の展望について

開 会

(松橋 広美 次長兼教育総務課長 資料に基づき出席者紹介)

(熊谷 雄一 市長)

それでは、令和6年度八戸市総合教育会議を始めます。

総合教育会議は、当市の教育課題を共有し、課題の解決や地域の実情に応じた教育行政の推進について、教育委員会と一緒に頑張って議論を交わすことのできる、大変重要な場と認識しております。

本日は「令和6年度教育委員会視察研修報告」と「本のまち八戸」における八戸市立図書館の今後の展望について」の2件について議題としております。

どちらの議題につきましても、皆様におかれましては、忌憚のない御意見をよろしく願ひいたします。

それでは、会議を進めてまいります。初めに「令和6年度教育委員会視察研修報告」について事務局から報告をお願いします。

議題(1)令和6年度教育委員会視察研修報告

(小向 一樹 総合教育センター主任指導主事

大下 洋一 教育指導課主任指導主事

資料に基づき説明)

(熊谷 雄一 市長)

ありがとうございました。皆様におかれましては、視察研修に同行された方もいらっしゃると思いますが、ただいま説明のあった一人一台端末や教育DXに関する視察研修の報告に対する御意見・御質問等をお伺いしたいと思います。

まずは福井委員お願いいたします。

(福井 武久 委員)

御説明ありがとうございました。私は同行しましたので大概のことは覚えているのですが、まずGoogleさんのほうですけども、非常に先進的な未来の職場環境という感じで、学校でそのような環境になるためにはまだまだかかるのかなと思いました。

埼玉の小学校も視察しましたが、当時聞き逃したのですが、八戸版のダッシュボードを作ると言いましたが、それは外注になるのですか。

(事務局)

校務支援システムを新しくする際には、実際はどの会社もダッシュボードの構築、システムを組んであります。ですので、校務支援システムを新しくすることによってダッシュボードができるということになります。

(福井 武久 委員)

そうですか。少し懸念するのは、働き方改革に繋がるかもしれないのですが、先生方大変なんじゃないかと思いました。あまりにも情報量が多くて、毎日のようにそれを見て、見ていなければ学校側が責められるような状況になる。非常に緊張するような場面もあるかと思いますので、その辺考慮にいれながら開発していただきたいと思っております。その1点だけが気になっておりました。

将来的には保護者をはじめ、周りの方はたぶん良い企画だとかお褒めの言葉があるかと思いますが、実際使う先生方は苦勞するのではないかと思っておりましたので、その辺だけよろしくお願ひしたいと思ひます。以上感想でした。

(熊谷 雄一 市長)

ありがとうございます。次に西山委員お願いいたします。

(西山 康巳 委員)

今回も研修参加させていただきました。ありがとうございました。非常に貴重な経験だったと思ひています。

現在八戸市に入っているchrome bookが導入された時点で私もまだ現場にいましたので、それを運用するという研修も若干受けましたが、なにせ知識がないものですからあまりよくわからずに、そのうちに退職ということになってしまいましたけど、今回また新たに更新するというところで、さらに内容が充実したものになっていくのだと感じました。

Googleのほうで説明を受けたところ、そういった私の知識からもそうなのですが、半分以上はまだピンとこないところが多かったのですが、これを有効に活用できるようになれば非常に効果的なものなのだろうと感じました。

昨今報道でもあがっているように、教科書もデジタル化されてくるとなると、教育のDX化はさらに求められてくるころだろうと感じています。

ただ、現場にいる児童生徒だったり先生方だったり、なかなか技量が追いついていかないところがこれからの課題になってくるのかな、心配されるところかなと思ひます。

ハードも整備され、ソフトも優れたものが入って、今度はそれを使う人間が、というところになると思うのですが、それを日常的に便利に使えるように、さらに応用して使っていけるようにするためにいろいろな支援が求められてくるのかなという感じがします。

現在紙ベースのもの、デジタルものを併用して行っているのですが、なかなかどちらも徹底できていないというところがある気がしていますので、その辺の徹底の仕方、Googleが提唱している3つの柱というところを、しっかりベースにしながら取り組んでいってほしいと感じます。

ただ、教員の負担軽減にはつながっていくことだろうと思うのですが、最初の導入の段階で、どうしても負担感を感じる先生方も出てくるのではないかと感じます。そういうところは、行政の方からいろいろな支援策を取ることが求められると感じました。

実際に現場を視察した埼玉の大東小学校ですが、こちらでは教育センターが非常に組織的にサ

ポートしてくれているというところがありました。

教育研究所の部署には、ICT教育推進係という部署があり、そこで各学校の先生方を研修させたり、各学校からリーダーとなるDX戦略アドバイザーという先生を養成したりするということも非常に力をいれてやっていました。そうすると、各学校においては戦略アドバイザーがその学校の他の先生方にアドバイスをする、手助けをするという系統がしっかりできあがっていて、子ども達も日常的に苦なくシステムを使って学習に取り組んでいくということができると思って拝見してきました。

いろいろなシステムで校内の児童生徒の情報を理解することができるということで、指導体制構築が確立されてきますし、同一の認識で、同じく子どもたちに対応して行くことができるということができていると感じました。そのあたりは有効だと見ています。

さらに校内だけではなく、中学校区で見ると小中での連携というふうなものに関しても、そのデータは有効であるし、さらには横のつながりを見ると、全市的に色々な情報の共有ができているのだと感じました。これも先程申し上げましたとおり、先生方はもちろん、子ども達もみんなこのシステムを有効に活用する技術、能力というところが身につけているからこそだと強く感じましたので、今後進めていくにあたって、本市でも行政の方から、総合教育センターの方から手厚いサポートができるようになっていけば環境、技術、能力の整った学校現場ということに繋がっていくのだと思っています。

いろいろと人材も不足しているという大変な状況の中だとは思いますが、その辺のところを市で支援していただいて、これから入ってくるシステムが有効に活用できるように推進していただければと思います。よろしくお願いいたします。以上です。

（熊谷 雄一 市長）

ありがとうございます。次に小澤委員お願いいたします。

（小澤 直子 委員）

私もさいたま市の大東小学校の視察研修に行かせて頂きまして、その際の感想も含めて、子どもたちの学びにおける教育DXについての所感を述べさせていただきます。

先程御報告でもありましたように、大東小学校では一人一人の学習の理解度や健康状態、またつまづきや様々な悩みにいち早く気づき対応できるように教育データを存分に活用しておられて、一人一人へのきめ細かな教育が実現されておりました。これが今後全国の教育現場で標準化されていくことへ大きな期待を感じております。

大東小学校でのある算数の授業の一コマでしたけれど、先生から出された問題を子どもたちがデジタル端末で回答すると、先生は自分の端末上で全員の子どもの回答、理解度を確認しておられました。子どもたちの理解が進んでいないことが確認されると、すぐにもう一度丁寧な授業を振り返っておられました。子どもたちの学習の習得度を可視化して、一目で把握することで一人一人に丁寧に対応することができるうえに、限られた授業時間をこれまでの何倍も学習に費やすことができるという大きなメリットを実感してまいりました。

こうして教育D Xによって一人一人の学習面や心身面が把握できるという大きな教育効果を上げている反面、デメリットとしてどうしても対面でのコミュニケーション能力の低下が挙げられてしまうところではあります。

しかし、八戸市内の小中学校の授業を拝見させていただきますと、主体的、対話的深い学びという観点から各教科で子どもたちがグループで話し合う活動がたくさん取り入れられており、時にはデジタル端末などを使って自分が調べた情報を伝え合ったり、また活発に意見を出し合う姿が見られました。またグループでの研究結果をまとめて皆さんに報告するなど、人とのかかわりの中で自分の考えをまとめて表現できる力が十分に身につくような授業が展開されております。

総合教育センターで行われました令和6年度の海外派遣交流事業の報告会では、中学生のお子さんたちが自分たちでスライドにまとめて、とても楽しくわかりやすく充実した報告を発表してくださいました。スライドはそれぞれの子どもの個性がとても光っていて楽しいものばかりで、中学生でこんなに素晴らしいスライドを作成する技術を身につけて、堂々と人前で自己表現できるものだなと感激しましたし、日々の学習の成果を改めて感じ、デジタルツールにはやいうちから慣れ親しんでおくことの大切さも実感しております。

デジタル端末を使って内面のS O Sを発信する手段から、子ども達が少しずつ自分の言葉で大切なことを人に伝えていける力が育まれていくことを願っております。

また、こうして教育のD Xが進む中でたくさんの膨大なデータを管理するには物理サーバーでは大変不安な点もあるかと思います。いつ何時何が起こるかわからない予測不能なこの時代において、やはりクラウドを活用して安心してデータを守ることができるよう早急な対応を御期待申し上げます。以上です。

（熊谷 雄一 市長）

ありがとうございます。次に久保委員お願いいたします。

（久保 千恵子 委員）

まずGoogle渋谷office様と、大東小学校の実践例の丁寧な御説明をありがとうございました。私からは今日のお話を伺った感想と、日ごろ子どもたちの様子から意見を述べさせていただきたいと思います。

私は小学校と中学校に子どもがおりまして、学校の授業で端末を使っているかと伺ったところ、中学校はプログラミングの授業が入ってきており進んでいるようでしたが、小学校ではあまり使っていないとの返事でした。

実際に端末やネットワークを使用して教える教職員の知識や経験が必要となってくるわけですが、I C Tを得意とする企業と連携を取るとか、企業から指導者を派遣していただくとか、予算や人材の確保をしっかりとしたうえで環境を整えていく必要があるのではないかと思います次第です。

D X化が進むことにより教職員の働き方も軽減されるようですし、児童生徒たちはデジタル機器を扱う授業にさらに興味を持って、さらに授業が楽しくなると思います。授業が楽しいと、現在問題になっている不登校問題なども少しずつ改善されていくのではないかと期待もしております。

す。不登校の児童生徒や病気、風邪などでお休みしている児童生徒も遠隔のオンラインで授業を受けられるようになれば学習の確保もできます。

ここで、オンラインの授業の状況について少し感じていることをお話させていただきます。コロナ渦のときは毎日のようにオンライン授業をしていましたが、現在、コロナが落ち着いた今、病気、不登校などで学校に行くことができない日など、オンラインの授業などを少しでも受けたという子どもたちがいたりします。でもなかなか先生がお忙しいのか取り合ってくれないという状況を何度か見ていました。D X化を進めていく中でできることはあると思いますので、必要な児童生徒へはオンラインの授業を前向きに取り組んでいただきたいと考えておりました。

D Xの話に戻りますが、いろいろと調べていまして、令和4年度の学校教育実践功労表彰で中沢中学校さんが端末を利用して生徒自身の健康管理をデータ化して取り組んでいたという記事を拝見しました。元に出るデータはあると思いますので、他校でも実践していただければ教職員や生徒たちも少しずつ慣れていくのではないかと思います。

また、2023年に高等学校の授業に「情報」という教科が導入されたと聞きました。私の息子も今中学三年生で来年高校に上がるのですが、「情報」という教科ははじめて聞いたので驚きました。小学校、中学校と段階を踏んで能力を付けていくことなのかなと感じておりますので、高等学校の教科に「情報」という教科が待っていると考えると、小中学校の教育D X化は少しずつ授業の効率を求めるのではなく、今までの学習のあり方を急ぎ足で変えていかないとないのではないかと感じております。

まずは、今後の八戸市におけるD X化の発展を心から期待しております。私からは以上です。

(熊谷 雄一 市長)

ありがとうございました。一通り御意見をいただきましたが、それ以外に各委員の御発言を聞いた上で、また御発言をされたいという方がいればここで御発言いただきたいと思いますがいかがでしょうか。よろしいですか。

〔なし〕

それではこれまでの意見を踏まえまして、令和6年度教育委員会視察研修報告について教育長からお願いいたします。

(齋藤 信哉 教育長)

まずは、今年度の視察研修は緊急対応があつて私は行けなかったのですが、帰ってきてから担当から報告を受けました。合わせて、昨年の暮れに教育D Xを担当する文科省の担当課長のほうから直接お話を聞く機会があつて、今日はその中で皆さんのほうに2点報告申し上げたいと思います。

まず、1点目はこのG I G Aスクールにおける学びの充実ということで、国をあげて進めているわけですが、ここ何年かの取り組み状況を全国区で見たときに課題としては、活用状況について各自治体間で格差が生じつつあるという認識を文科省は持っているようであります。

先程、スライドの中で教育D Xの活用状況を数値化したものが紹介されましたが、あれを御覧

になっても当市の活用状況を紹介しますと、県内でも青森市の次に伸び率はあるけれども、もともと数値が低かったので伸び率が向上したように見えるけれども、全国区と比べると、まだまだ状況的には不足していると感じています。

先生方も色々と研修をしながら取り組んでいるのですが、文科省が懸念することは、この教育D X、特にI C Tを活用することが目的にならないように、あくまでも、これは深い学びを実現するためのひとつの手段であるということを前提として、これを取り扱って欲しいというお話がありました。まさにその通りだと思っております。

令和9年度に学習指導要領が改訂になります。そして、令和12年は小学校、令和13年に中学校でそれが実施となります。まだ若干時間はあるのですが、今文科省のほうではそれを目指しながら、教育D Xの更なる活用ということで、さまざまなことを現場のほうに投げかけているということも聞いておりました。

その中のひとつとして、昨今報道でも話題になっております学習用デジタル教科書の導入、この辺については令和6年度、今年度に小学校5年生から中学校3年生を対象として、英語の教科においてすでに導入が図られています。英語に次いで学校現場でニーズが高いと思われる算数、数学、これについて段階的に導入していきますということも、文科省の担当者の方から話がありました。やがて、これが全教科に導入されるだろうということが予測されます。ただ、現状を少しばかりお話しすると、デジタル教科書を実際に導入した教科において、現場が実際に活用している割合は50%程度ということになりました。こういう状況を見ますと、まだまだ教育D Xについては更なる研鑽と、子どもたちの状況をみながら有効かつ効果的なものにしていかないといけないということを考えておりました。

合わせて、全国の学力検査は紙媒体で行っているのですが、この学力検査等もすべてデジタル化される、そういった情報もあります。それがいつなのかは現場の状況をみながら検討されていくと思いますが、ようするに、こういうものが確実に学校現場に加速的に入ってくると予測されます。

当市では、昨年4月から教育委員会の中に教育D X委員会というものを立ち上げました。これは教育委員会の課を超えて、学校現場の教育D Xのサポートをしていくという目的でやっているところでした。今年度は5回このD X委員会を開催しまして、各事業の進捗状況、そして着手率等も踏まえて検証しました。その結果、今年度は予定していたものの91%を達成する事ができたと報告を受けておりますので、来年度以降も、当市におきましてはこの教育委員会の教育D X委員会を核としながら全国区の状況をしっかり見定めて、学校現場には最新の情報、最新の手段を提供していきたいと考えておりました。私からは以上です。

(熊谷 雄一 市長)

ありがとうございました。

それでは、私からも一言ということになりますが、報告を聞いて率直な意見を述べさせていただきます。視察研修をされてきて、各教育委員の視察された方々からの意見をお伺いしておりますと、小澤委員のほうからは学びD Xに関する感想もあったのですが、報告と他の委員の方からは、主に校務D Xについての発言があって、それについては今後の方向性というのも見えてくる

と思うのですが、学びDXについてはあまり触れられていないということが気になりました。久保委員は視察には行かれていないのですが、現場の声も聴きながら、学びDXが進んでいないという現状報告もあったと思うのです。

冒頭、報告でも言われていましたが、GIGAスクール構想と校務DXの二つで教育DXとなったときに、校務DXの方は進んでいくのだろうけど、GIGAといいますか学びDXのほうはどうなっていくのだろうというのが1点です。

もう一点は、教育長から今お話がありましたが、中教審のほうでもデジタルを正式な教科書とする、そうなったときに、各地方自治体にその選択も任せるとなってきたときに、今後どうなるのかと気になっております。先進地というか、スウェーデンかどこかではデジタルをやめたと新聞で拝読しまして、国の考え方というのもあるのですが、八戸独自としても考えていなければいけない、選択をせまられるとすれば、そういうことも準備していく必要があるのではないかと思います。そういう率直な意見であります、教職員の働き方改革という点からいうと、教育DXの推進は今まで以上に教職員の負担軽減が図られていくと期待しております。私からは以上です。

それでは、次の議題に移ります。本のまち八戸における八戸市立図書館の今後の展望について事務局より説明をお願いいたします。

議題(2)「本のまち八戸」における八戸市立図書館の今後の展望について

(磯嶋 奈都子 図書館長 資料に基づき説明)

(説明後 図書館内の施設見学)

(熊谷 雄一 市長)

それでは、事務局からの説明や視察見学を終えて、皆様から御意見や御質問を伺いたいと思います。まずは福井委員からお願いいたします。

(福井 武久 委員)

どうもありがとうございました。久しぶりに図書館に入りまして、たいぶ変わったなと思って見ていました。また、バックヤードの方も見せて頂きまして、ぜひ自分の誕生日の新聞記事あれをコピーしていただきたいなど。あとでお願いに行きたいと思っていました。ありがとうございました。

それで、伺いたいことがあるのですが、電子図書が流行ってくると思うのですが、私もパソコンで画面を見ていると1時間から2時間すると目がしょぼしょぼしてきて見ていられなくなるのですが、やはり電子図書が主流となる方向になるのでしょうか。

（事務局）

図書館に来館することが難しいという方たち、たとえば中高生であれば、部活や補習があつて開館時間に来られない、あとは御高齢で出かけてくるのが難しいという方でスマホやタブレットを使っている方には便利になるかと思います。あとは文字等の白黒を反転させたほうが見やすいという方もいらっしゃる、そういう方のためにも電子書籍であれば、それがデジタルで簡単にできるというような書籍、あとは読み上げ機能がついた書籍もありまして、読まずにスタートを押すと読み上げるという機能がついたものも一部そろえていきたいなと思っております。そうすると視覚に障害がある、あるいは見えにくくなったという方でも御利用いただけるのかなと思っています。

（福井 武久 委員）

今、御説明いただいた方向はいいと思うのですが、普通の方が手で操作しておる姿をよく見ます。歩きながらだと、なんとなく危ないなと思いながら見ていました。

あと、昔は新聞を調べる時に図書館に行ったのですが、今日バックヤードにすごい量の冊子がありました。以前、マイクロフィルムで調べたことがあるのですが、それは今もあるのですか。

（事務局）

マイクロフィルムもございます。すべてがマイクロフィルムになっているわけではなくて、一部分になります。東奥日報やデーリー東北、それよりも古い新聞、明治自体とかのものです。状態が、原紙が悪いものはマイクロフィルムで見て頂くように今もしております。

（福井 武久 委員）

またバックヤードの話なのですが、すごい本数があるのですが、私も棚にだいぶ古いものを入れておくとおいがついたり、いくら乾燥剤のものをいれても痛みがあったりするのですが、今日見たらどこにも痛みが入っていないし、湿度なども色々と考えて保存しているのですか。

（事務局）

実は三階には空調がございません。空気の循環はさせていますが、冷房や暖房という施設はないです。ただ、どちらかというと図書館は乾燥する建物で、ほこりはあるのですが、カビというのはそれほど発生しておりません。ただ、寄贈でいただいたものが実はカビがついていたということはありまして、入れている間にカビが発生したということもありました。そういったものは資料として利用者に提供できませんので除籍します。ただ、図書館に最初からあつてカビが発生したというケースはあまり覚えがないです。どちらかというと乾燥しているという施設です。

（福井 武久 委員）

最後に、これは前々から教育委員会定例会でも言っていたのですが、郷土愛を育むためには、この地域の歴史がわかるような、それも小中学生が見てわかるような企画、本でも冊子でもあれ

ば良いと思っています。祭りの小さな冊子はあるのですが。あと、今日見たら分厚いものはたくさんあるのですが、小中学生のコーナーもあるようなので、小中学生がパッと見てわかるようなものがあれば、なお郷土愛が育めるのではないかと思いますので、機会がありましたらよろしくお願ひしたいと思います。

(熊谷 雄一 市長)

ありがとうございます。続きまして西山委員お願ひいたします。

(西山 康巳 委員)

大変ありがとうございました。前回の定例会のときにもお話しましたが、図書館150周年記念ということで、いろいろと事業を立ち上げて実施なさっているというところ、非常に効果的だと思って感じていました。これまでもずっと継続してやられてきた事業や、今回150周年で特別に行った事業もあると思うのですが、手ごたえを感じてよさそうな事業というのは、これからも継続してやっていっていただければありがたいと思います。

特に、前回もお話した職場体験などは、小中学校としても非常に興味があるというか、やりがいのある大切な部分だと思うので、そういったところはぜひ、今後も内容も充実させながら取り組んでももらえればと思いました。

あと、先程はデジタルというか教育DXの話だったのですが、私も現職のときは国語教師だったので、紙ベースでの活字を見るというのが大事だなと思っている者の一人で、実際に本を手にとって開いてみるというところを、これからも大事にしていきたいと思います。この前の池上彰さんの講演でもおっしゃっていましたが、実際に自分の目で本を探して、その本を手にとってページを開いてみるという有効性はかなり効果的な部分があると思うので、ぜひ蔵書等をどんどん宣伝をして、多くの市民が活用できるような取り組みを進めていただければと思います。

あと、今日は一通り施設を見学させていただいて、本当にたくさんの資料があるのだなと改めて感心させられました。歴史的な古文書や新聞雑誌などの古い時代のものもあり、たくさんの人が興味あるものもあると思うので、そういったものの活用の仕方も大いに宣伝して、多くの人たちが活用していけるようになればと思います。

学校との連携としては、以前、国の委託で行った図書館支援センター事業にはじまって、ネットワークで各学校と図書館が繋がっているというところがあったと思うのですが、それによって本の貸し出しなど、そういったところは今何かされているものがあるのですか。

(事務局)

現在、学校図書館のシステムと、市立図書館のシステムは連携しておりません。

(西山 康巳 委員)

学校の方から図書館にいろいろ依頼があるとか、団体貸出とかは行っていますか。

（事務局）

本の団体貸出はあります。あと、学校への配本を行っています。また、最近は移動図書館を学校で行うことへの需要が多くなっており行っています。配本も継続して小学校にやっています。団体貸出はやはり学校司書の方が入りましたので、学校司書の方が先生に頼まれてくるとか、生徒に頼まれてくるといふこともありますし、読み聞かせボランティアをやっている学校は、その方のために登録するということで利用していただいています。

（西山 康巳 委員）

せっかくそういういいシステムがあるので、宣伝して、学校の中でも活用してくれなくて、以前も苦労したところがあったのですが、どんどん進めていければと思っていました。ありがとうございました。

（熊谷 雄一 市長）

ありがとうございました。続きまして小澤委員お願い致します。

（小澤 直子 委員）

御説明ありがとうございました。久しぶりに図書館に来まして、そちらの一般閲覧席、学習コーナーに来ましたら、月曜日の平日のこの時間、ずいぶんたくさんの方が利用されていると見ていました。受験シーズンというのものもあるかもしれませんが、二階の方はいっぱいという形で、その姿を見ていて、そういえば私も高校生の頃に学校の帰りにふらっと立ち寄って、いいふりして図書館で勉強しようと思って来たのはいいものの、静かすぎて居心地が良く寝てしまったという思い出もありましたが、懐かしい思いで拝見させていただきました。

ずっと私も人生に図書館が寄り添ってきた記憶があるというところで、一番記憶にあるのは小学校の中学年、3年生か4年生くらいには自由研究の研究を探しに図書館に来たり、学生になったら今も申しあげました勉強で立ち寄ったり、社会人のときには時間があったら時間をつぶしに図書館へ寄ってみたり、その時は喫茶コーナーがありましたので、そこで食事をしたり、それぞれにいろいろな楽しみ方があって、それぞれ図書館がいつも隣にいたなと懐かしく思わせていただきました。

そうした感想がある中で、資料にありました、2024年から図書館の運営方針が「集まる つなぐ 広がる 楽しむ 育む 図書館」ということで、とても素敵な方針だなと思いながら、八戸市の図書館がこれからどんな発展をしていくのかと、今わくわくしているところであります。

図書館の方は、すでに御説明のありましたブックセンターとも連携を取りながら、小さなお子様から高齢者の方まで、たくさんの方が集まって本に親しむことができるように、様々工夫された企画や事業がなされていることで、八戸市が「本のまち」として八戸市の中で認識されつつあると感じております。「本のまち八戸」として、全国に誇るブックセンターもございますし、今は市内にも本の好きな方たちが、個性的でかつ魅力的な書店やブックカフェが次々と開店しておられて、「本のまち八戸」としては心強いニュースだと思っておりました。

その中で図書館の役割、強みは何なのかと思ったときに、これだけの膨大のたくさんの書籍が

いつも自由に無料で借りられて、しかも気軽に本を手にとって、すいぶん長い時間立ち読みができるというのが利点だろうと思います。本の好きな方にとっては本当にありがたい存在でありまし、中心街から近いということもあって、ちょっと時間をつぶそうかなあという方にはこの八戸市の図書館は大変魅力的な場所にありますし、そう思われる方も大勢いるかと思っています。

先日の池上彰先生の講演でも、居心地のいいところで本を読むというお話、それが私の中に心に残っているのですが、この八戸市の図書館が八戸市民の皆様にとって居心地の良い空間で、よりよく文化を育むことができる生涯教育に必要な場と感じておりますので、これからも居心地の良い場所であり続けていただけるのを強く考えながらも、振り返りますとそれぞれ私の人生の中で、それぞれのライフステージで図書館が隣にあったのですが、私が母親になって、まだ子どもが小さいときには図書館に来た記憶がなくて、その時は小さい子どもが騒いでしまって皆様に御迷惑をかけたらどうしようという不安もあって、なかなか図書館に来られない時期がありました。今下に行きますと、小さなお子さんを抱えて楽しそうに本を探すお母さまがいましたが、当時はお話会とか、気軽に小さなお子さんと一緒に来られるという機会が、なかなか情報を得ることもできなかったのも、その空間が今思うと寂しかったかなと思います。そういう面では今は図書館がどんな世代にも、子育て世代にも高齢者の方にも皆さんに親しまれる図書館になっているというのはうれしく思いますし、これからも八戸市民の方に愛される長い歴史を持つ図書館であることを心からお祈り申し上げます。以上です。

(熊谷 雄一 市長)

ありがとうございました。続きまして久保委員お願い致します。

(久保 千恵子 委員)

御案内、御説明ありがとうございました。150周年ということで、いろいろと回って見させていただきましたが、歴史を感じる古い本もあり、とても魅力的でございました。

私は八戸生まれではないので、こんなにも八戸の歴史のある資料などがいっぱいあることが驚きました。少しずつでも休日に図書館へ立ち寄って調べものをしたりしていたのですが、今日もいろいろとたくさんの方が来ており、土曜日や日曜日に来ると座れないくらいの方がいまして、本をゆっくり読んでいたり、今の時期は受験生が多いので座る場所がないくらい、勉強している子どもたちも多くいて、とてもいい場所だなあと思っていました。私も一回来ると二時間ちょっといて、いろいろと見させて頂いていました。

私も子どもを二人持つ親なのですが、学校の図書室にもよく行って、どんな本があるのか見させて頂いたりしていました。本が好きな子どもは、お休みの時間とか土日の休日に必ず本を借りて、いつも同じメンバーの名前が出てくるのですが、すごく羨ましいなあと思って見ていました。

本をあまり好きでない、あまり読まない子が今多いので、タブレットだったりスマートフォンだったり、そっちの誘惑にいつてしまう子が多いと思うのですね。本を好きになるにはどうしたらいいのだろうと、PTAの図書委員会もあるのですが、どうしたら本を好きになってくれるかなあ、どういう本を置いたらいいかと学校司書さんと一緒に考えたりしてはいます。

本を好きになってほしいということもあるし、学校で本を読む時間が少なくなっていることも現状でした。私の娘が通っている小学校は、今年度から全校2時半帰りの時短というか、早帰りの時間になっていまして、国語や算数の授業数はおさまっているのですが、朝の読書の時間が削られてしまったと聞いていまして、少し残念だなと思いました。昼休みの時間も短くなって、お手洗いに行って次の授業の準備をしないと、本に触れる時間が少なくなっているなど、残念だなと思っていました。その中で、本に魅力を感じるにはどうしたらいいのかなと常に考えていました。どうしたら好きになってくれるのでしょうか。

（事務局）

やはり小さな頃からの読み聞かせということが、一番効果があるかなというのと、この前池上さんがおっしゃったように、親が勧めたものを読むはずがないということで、読んで欲しい本をさりげなく身近に置いておくとか、何を読んでいいのかわからないという子どもたちも多いので、学校司書の方も手を変え品を変え、こういう本があるよと紹介しています。それはとても効果があるのかなと思います。それは小さな頃から読んでいなくても、小学校の高学年、中学生になっても、人に勧められて読んでみたら面白かった、本って面白いんだという瞬間は、絶対に来ないということはないので、いろいろな機会をとらえて、本に結び付けていくような機会を作っていければいいのかなと思っています。

そのような中、市ではやはり小さな頃から読んでほしいので、ブックスタートをやって、小学校ではブッククーポンを配布するという取り組みをしているのですが、それでもどうしても読書離れが進んでいくというのは私たちにとっても課題だと思っています。

（久保 千恵子 委員）

ありがとうございます。親の私たちが読んでいる姿を見せるのが一番かなと思っていましたので、根気強く読書をして、保護者の方にも周知していこうと思います。

（熊谷 雄一 市長）

ありがとうございます。各委員から御発言がございましたが、それを踏まえて何か追加で御発言があれば頂戴したいと思いますよろしくお願いします。

〔なし〕

それでは、今までの意見などを踏まえて「本のまち八戸における八戸市図書館の今後の展望」につきまして教育長からお願いいたします。

（齋藤 信哉 教育長）

まずは本日この会を開催していただきましたので、当図書館150周年記念事業はさまざまなイベント、そしてこれから3月に入りますとフィナーレイベント、そして記念誌の発行と、そういうスケジュールで進めさせて頂くと共に、図書館の中の環境整備、照明、空調設備を整備して頂きましてありがとうございました。

私からは今後の構想というか、少しばかり夢ということで話をしたいと思いますが、近年の小学校の様子を紹介したいと思います。

御承知の通り学校図書館における小学校の図書館の蔵書の貸出件数は、ここ何年かで大きく増えてきています。その理由のひとつに教育委員会が、あるいはこども健康部が主管になっているブックスタート事業、マイブック推進事業、各学校への図書館に学校司書を配置している、さらにはブックセンター、博物館、そういった関係部署等としっかり連携を取りながら本に親しむ環境づくりを進める、そういったものが身になっているのかなと思っていました。

一方で、中学生になると貸出冊数がどうなるのかというと、もちろん小学校のように本を借りる子どもたちは少なくなっていくと思います。その理由の一つとしては、部活動とか、受験勉強、学習というところに時間を取られ、本を読むゆとりがなくなってくるのかなと感じられています。

では、高校生はどうなのかというと、実は私は1月からバス通勤に変えまして、朝高校生と一緒に市役所にバスに乗ってくるのですが、バスに乗るといつも見られる光景は、子どもたちはほぼ100%がスマホを見えています。覗き込んでいるわけではないのですが、何を見ているのかなと観察をしていたら、ひとつはゲームに興じている子どもとか、あるいはSNS等を見ている子がいました。すごくびっくりしたのはスマホの中で本を読んでいる、電子書籍を読んでいる子どもが、決して人数的に多いわけではないのですが確実にいます。先程、福井委員さんから電子図書がこれから普及されていくことに懸念を示すような御意見がありましたが、私も昭和時代の生まれですので、本を手にとって、そして活字に親しむというのは大変大事なことだと思っております。ただ今の若い人というか、小中高生、大学生もそうかもしれませんが、その方たちが果たして我々と同じ感覚、意識を持っているのかということが考えさせられることです。

さきほどデジタル教科書のお話をしましたが、大変興味深い担当の方のお話は、併用できる環境づくり、これからはそれが大事ですよという話がありました。まさにデジタルと紙ベースの図書と併用、あるいは選択できるような環境づくりをこれから進めていかないといけないのではないかなと思っています。

もう1点は、今子どもたちは学校現場で、一人一台端末がおかげさまで全部の子ども達に配布されています。そして子どもたちは、大人以上に活用が進んでいるという思いです。これは将来的な夢ではあるのですが、一人一台端末の中でデジタル図書とか、そういったものが自由に見られる環境ができないかどうかというところが、十分これから研究の余地があるなと思っていました。これから本市の将来を担う子どもたちでありますので、そういった環境づくりを行政がしっかり構築したうえで、子どもたちには健やかに成長してほしいと思っていました。私からは以上でございます。

（熊谷 雄一 市長）

ありがとうございました。最後に私の方からも簡単にお話をさせていただきますが、先般の「読書へのとびら」本のまち八戸魅力創出イベント、私は池上彰さんの講演だけしか行けなかったのですが、非常に盛況でしたよね。講師が良いというものもあるのですが、本に対する関心が高いのかなあと思いましたし、毎年やっているブックフェスも非常に盛況ですよね。「本のまち」というのがどんどん市民に浸透しているのではないかと感じております。

図書館、先般も一回見せてもらったのですが、今回改めて見て、テーマごとに新聞の切り抜き

を保存しているというのは、あれは非常に活用しやすいと思いましたが、私も活用したいと思いました。

先程教育長から御発言いただいたとおり、空調設備の設置をして、ボイラーの配管の漏水薄い情報もありましたが、今まで以上に先程小澤委員からもあったように、地域に愛される図書館を目指していただきたいと思います。

それから、サービス向上の中で電子図書の導入の話もありましたが、来週から始まる議会の予算案が御議決賜ったのちのことではありますが、デジタル図書の導入などによって利便性を高めていくということも必要だろうと。もちろん手にとって読む、私はどちらかというとそちら派なのですが、だんだんそういう形になっていくと思います。

先程バスの中の話がありましたが、私も新幹線の中でずっと本を読んでいるのですが、たまにトイレに立つときに見てもあまり本を読んでいる人は少なくなっていますよね。そういう状況ではありますが、やはり本を手にとって読むというのは大事だと思いますし、一方でデジタル化も求められてくると思っております。それからブックセンターとの連携の事業も展開しておりますが、議会の方からは人材交流ということも提案があったと思いますので、そちらのほうもやっていただくということと、さまざまな部署等とこれからも連携をとって頂きたいと思います。図書館頑張っていると思いますのでよろしくお願いします。私からは以上です。

その他ですが、皆様から何かあれば。よろしいでしょうか。

〔なし〕

それでは、最後に私からということですが、図書館の役割は非常に重要だと思いますし、今日出た御意見を参考にしながら、市長部局と教育委員会がしっかり連携を図って、八戸の教育行政の発展に努めていく事が大事だと思っておりますので、引き続き皆様方の御協力をよろしくお願いします。

これを持ちまして本日の議題はすべて終了いたしました。進行を事務局にお返しいたします。

閉 会

（松橋 広美 次長兼教育総務課長）

皆様、長時間にわたり、貴重な御意見をいただきまして大変ありがとうございます。本日いただいた御意見等は、八戸市の教育行政の更なる充実・発展に活かしてまいります。

それでは、以上を持ちまして、令和6年度八戸市総合教育会議を閉会いたします。

皆様、お疲れ様でした。

（午前3時50分 閉会）